

東北地方 1か月予報

(6月22日から7月21日までの天候見通し)

平成14年6月21日
仙台管区気象台発表

<予想される向こう1か月の天候>

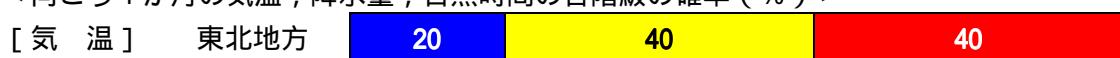
向こう1か月の可能性の大きな天候は以下のとおりです。

梅雨前線や低気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並か高いですが、ここ数日は気温の低い状態が続くでしょう。降水量と日照時間は平年並の見込みです。

週別の気温は、1週目は低く、2週目、3~4週目は高い見込みです。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



 低い(少ない)  平年並  高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



 低い  平年並  高い

<予報の対象期間>

1か月 : 6月22日(土) ~ 7月21日(日)

1週目 : 6月22日(土) ~ 6月28日(金)

2週目 : 6月29日(土) ~ 7月5日(金)

3~4週目 : 7月6日(土) ~ 7月19日(金)

<次回発表予定等>

1か月予報:毎週金曜日14時30分 次回は6月28日

3か月予報:7月22日(月)14時00分

<参考資料(平年並の範囲等)>

(1) 30年平均値(向こう1か月の平均気温, 降水量, 日照時間と1週目, 2週目, 3~4週目の平均気温)

	気温(℃)	降水量(mm)	日照時間(時間)	気温(℃)		
				1週目	2週目	3~4週目
大船渡	19.6	186.3	132.2	18.1	18.9	20.3
新庄	20.9	196.5	131.5	19.5	20.3	21.6
若松	22.0	174.7	140.2	20.6	21.4	22.8
深浦	19.8	136.5	166.8	18.3	19.2	20.6
青森	19.6	94.2	167.7	18.0	18.8	20.4
むつ	18.0	122.8	142.5	16.4	17.3	18.9
八戸	18.6	116.5	154.5	16.9	17.8	19.4
秋田	21.3	181.9	156.5	19.9	20.6	22.0
盛岡	20.3	157.4	130.4	18.9	19.7	21.1
宮古	18.4	145.6	129.5	16.8	17.7	19.3
酒田	21.7	194.6	154.7	20.2	21.0	22.4
山形	21.7	150.2	132.1	20.2	21.1	22.5
仙台	20.5	179.9	108.4	19.0	19.8	21.3
石巻	19.9	146.0	127.6	18.4	19.2	20.7
福島	22.0	160.1	112.3	20.4	21.3	22.8
白河	20.6	203.7	106.9	19.0	19.9	21.4
小名浜	20.4	157.0	125.0	19.1	19.8	21.2

なお、気温、降水量、日照時間の「平年並」の範囲は、地点ごとに幾分違いはありますが、下に示した地域平均の「平年並」の範囲を参考にして下さい。

(2) 1971~2000年のデータに基づいた向こう1か月地域平均の気温、降水量、日照時間の平年差(比)の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	気温平年差(℃)	降水量平年比(%)	日照時間平年比(%)
東北地方	-0.4~+0.4	86~113	90~109
東北日本海側	-0.4~+0.4	85~112	90~106
東北太平洋側	-0.4~+0.4	84~111	88~112

(3) この予報期間の1週目、2週目、3~4週目の地域平均の気温平年差の「平年並」の範囲は次のとおりです。

	1週目	2週目	3~4週目
東北地方	-0.6~+0.5	-0.7~+0.6	-0.5~+0.5
東北日本海側	-0.5~+0.5	-0.6~+0.6	-0.5~+0.5
東北太平洋側	-0.6~+0.4	-0.9~+0.6	-0.6~+0.6

<参考資料(利用上の注意)>

(1) 気温・降水量等は、「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の3つの階級で予報します。階級の幅は、1971~2000年の30年間における各階級の出現率が等分(それぞれ33%)となるよう決めています(気候的出現率と呼びます)。

(2) 確率は、予報した階級が実際に起こる割合(出現率)を表しています。たとえば、確率60%の予報10例では、そのうちの6回で予報した階級が実際に起こり、4回で起こらないことが想定されます。また、統計的に有意性の高い予測資料が得られた場合には気候的出現率(各階級ともに33%)から大きく隔たった確率(10%や60%、70%など)を付けられますが、有意性が低い場合には気候的出現率と同じかそれと同程度(30%、40%)の確率しか付けられません。

(3) 晴れや雨などの天気日数は、平年の日数よりも多い(少ない)場合は「平年に比べて多い(少ない)」、また平年の日数と同程度に多い(少ない)場合には「平年と同様に多い(少ない)」と表現します。なお、単に多い(少ない)と表現した場合には対象期間の2分の1より多い(少ない)ことを意味します。

東北地方 1か月予報解説資料

平成14年6月21日 仙台管区気象台

1. 可能性の大きな天候の特徴

向こう1か月(6月22日~7月21日) :

梅雨前線や低気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は平年並か高いですが、ここ数日は気温の低い状態が続くでしょう。

1週目(6月22日~6月28日) :

一時晴れる日もありますが、低気圧や梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は低いでしょう。

2週目(6月29日~7月5日) :

梅雨前線や低気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

3~4週目(7月6日~7月19日) :

梅雨前線や低気圧の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

平均気温は高いでしょう。

平年の晴れ日数

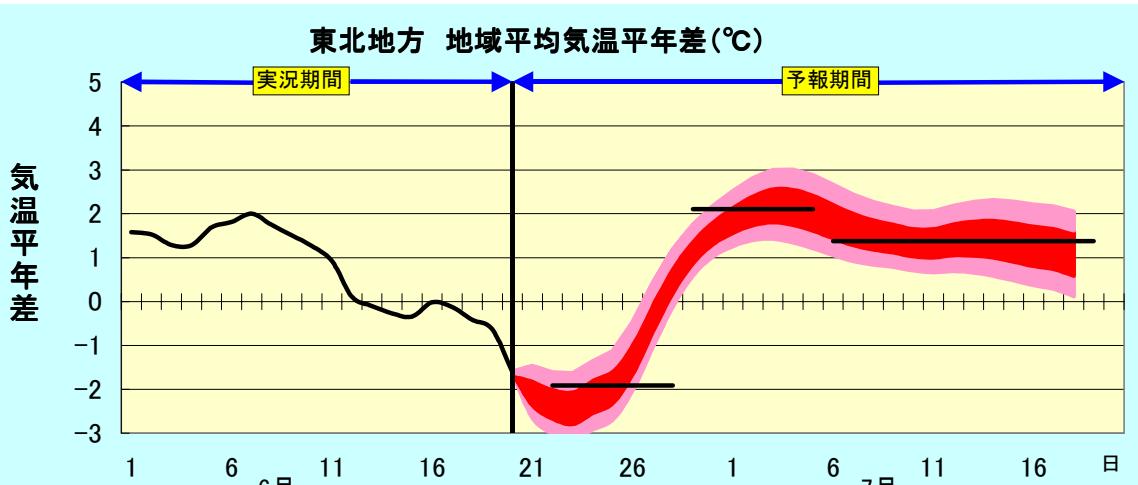
	向こう28日間	1週目	2週目	3~4週目
東北日本海側	11.1日	2.7日	2.9日	5.5日
東北太平洋側	9.4日	2.1日	2.5日	4.8日

2. 東北地方の地域平均気温平年差の実況と数値予報による予測

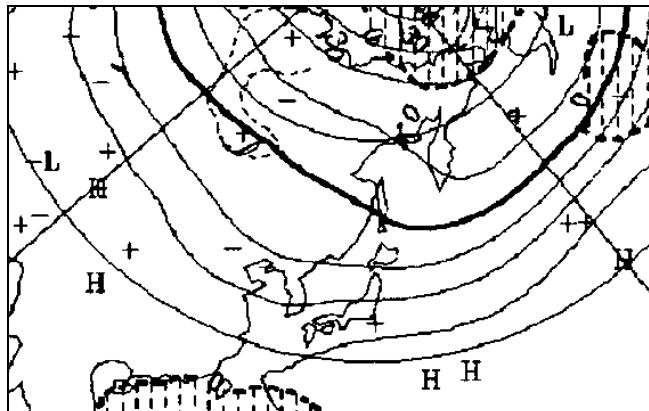
数値予報による週別の気温は、1週目は「低い」、2週目と3~4週目は「高い」を予測している。

予報は、1週目、2週目、3~4週目とも数値予報どおりとする。

なお、数値予報の信頼度は大きい。



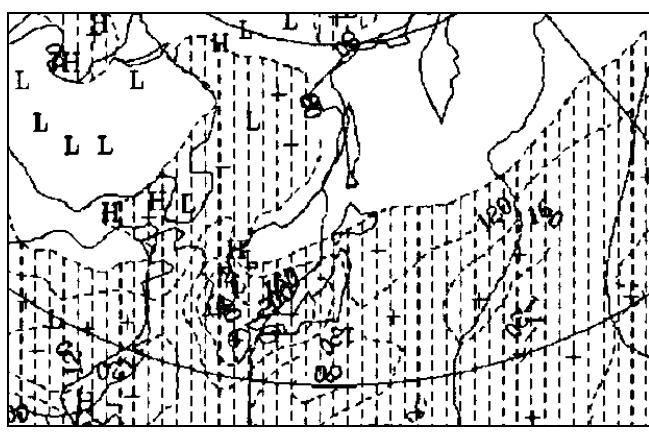
3. 循環場の特徴（アンサンブル平均天気図）



500hPa 高度・偏差

月平均で見ると、極東域は広く正偏差で、朝鮮半島付近が弱い気圧の谷となっている。

週別（図略）では、1週目は日本付近は負偏差となるが、2週目以降は極東域のほぼ全域で正偏差となる。2週目は朝鮮半島付近に気圧の谷があり、低気圧や前線の影響を受けやすい。



地上気圧と降水量

月平均で見ると、日本海に梅雨前線に対応する等圧線のくびれがみられる。朝鮮半島や西日本を中心をもつ凝結域が東北地方にもかかる。

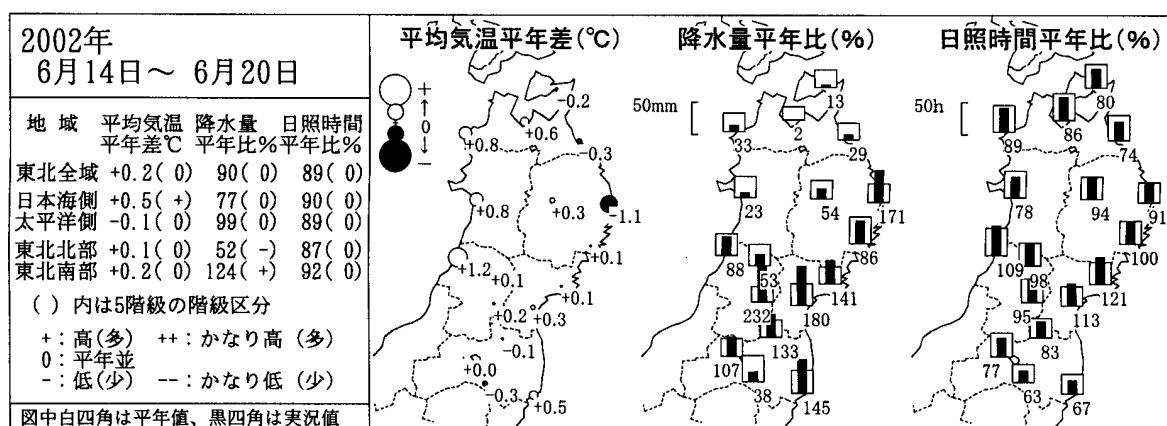
週別（図略）では、1週目は、凝結域は東北南部以南。2週目は、西日本と東日本中心の凝結域が北海道までかかる。3~4週目の凝結域の分布は月平均とほぼ同様。

4. 最近1週間（6月14日～6月20日）の天候の経過

この期間、天気は概ね周期的に変化した。15日や18日は気圧の谷や低気圧の影響で、東北南部を中心にまとまった雨となった。

期間の前半、東北太平洋側では冷たい東よりの風の影響で気温が低くなり、青森県の下北、三八上北や岩手県の沿岸北部では低温注意報が発表された。

平均気温は、東北日本海側で平年差+0.5と高く、東北太平洋側で平年差-0.1と平年並だった。降水量は、東北北部で平年比52%と少なく、東北南部で平年比+124%と多かった。日照時間は、東北地方で平年比89%と平年並だった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)